

リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022
一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会
ライフスタイルを支援する地域リハビリテーション
～地域リハ塾生の実践報告2022～

就労支援を通じてその人らしさを考える ～脳卒中片麻痺者の事例を経験して～

兵庫県総合リハビリテーションセンター
理学療法士 相見 真吾

流れ

- 事例紹介(ライフスタイルについて)
- 経過
- 実践内容
- 支援によりうまくいったこと、
復職後に苦労している点
- 地域リハにおける視点から
～本人を支えるネットワーク～



ライフスタイル紹介

- **年齢**：50歳代 • **性別**：女性 • **居住**：A市
- **家族構成**：父（80歳代）母（70歳代）の3人暮らし
- **就労内容**：小学校の事務員（B市）、勤続年数：30年
- **病前生活**：仕事大好き！（土日も仕事、平日も21時まで）
通勤-自動車で40分
事務職として教育的立場で役割を担う
家事は母親と本人で分担
- **疾患名**：右被殻出血
- **障害名**：左片麻痺 要介護3 手帳2種2級
高次脳機能障害（情報処理、空間認知）
- **ニーズ**：復職、自動車運転、歩行獲得

経過

発症

1か月
回復期
転院

7か月
自宅
退院

15か月
訓練センター
入所

21か月
訓練センター
退所

22か月
リハビリ
出勤

23か月
復職

体力
ADL

車いす院内
自立
歩行見守り

屋外歩行自立
外出自立

傘さし
歩行獲得

屋内独歩

ス ポ ー ツ

装具なし歩行

高次脳
注意訓練

作業

自動車

主治医
意見書

自動車
習熟訓練

通勤
自動車

訪問看護に
よるリハ

自動車
適性評価

自動車
取得

自主練

職場

サービス

屋内歩行自立
屋外歩行見守り
事務作業練習

職場面談
訪問

リハ出勤
頻度増加

訪問看護に
よるリハ



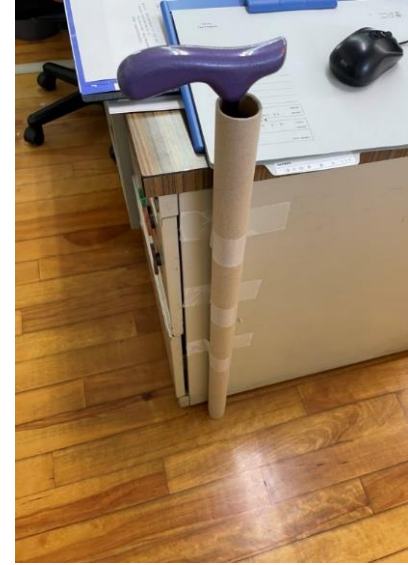
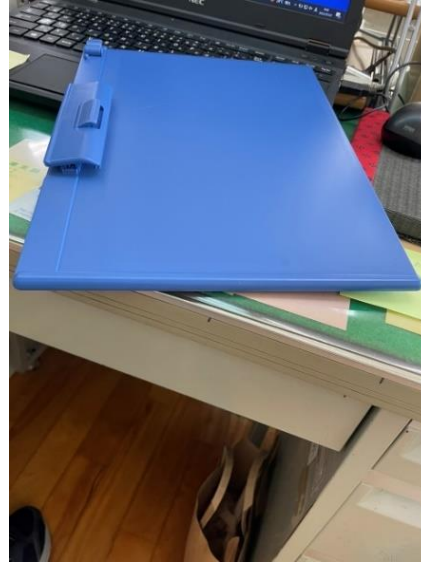
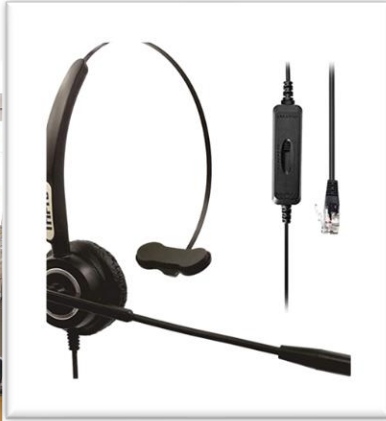
実践内容

- ①職場訪問（福祉サービス利用中に実施）
復職後の聞き取り
- ②復職後に定期的に連絡、聞き取り
（生活状況の確認）

① 職場訪問



① 職場環境 (現在)



②復職後の聞き取り～生活状況～

- ・復職後は体調を第一に！「いてくれるだけでいい」
- ・家族の病院送迎はタクシーで！周りに動いてもらおう
- ・仕事は後輩育成を意識して！
- ・「こんな自分が役に立っているのか」
- ・家でも職場でも配慮されすぎてしまう。
スタートラインに立ちたい！でも、、

②復職後の聞き取り ～障害者スポーツの継続～



落ち込んだ時の心の支えに！

支援によりうまくいったこと

①職場訪問による効果

- ・環境の整備（動線、駐車場、手すり、トイレ、デスク）
- ・会社側の配慮、加配で事務員を配置
- ・勤務年数が長いことでネットワークが再構築
- ・**児童への理解**

②訪問リハでの対応：退院後、退所後

- ・体のメンテナンスと事務能力向上

③本人を取り巻くネットワークの構築

- ・患者、利用者と障害者スポーツに関わる（ウォーキング、ツリーイング、スポーツ吹き矢）

復職後に苦労していること

・病前生活では「仕事が好き」休みの日や平日も積極的に仕事に取り組む

→仕事への取り組みを見直したが、仕事と健康のバランスをとる
難しさ

・相談したいときには病院や施設のスタッフや同じ障害を持った利用者の仲間とは気持ち共有できる

→職場や家族への「本当はこうなのに、こうしてほしいのに」が発信しづらい。



本人を支え続け、本人と関わっていく
人と機関のネットワークの重要性

○地域リハにおける立場から

～本人を支援するネットワークの再構築～ 機関

まわりから必要とされる存在と役割

働きずらさを支える

- ・公的機関での勤務
- ・勤務地と居住地（圏域が異なる）

- ・障害者就業・生活支援センター（各圏域）（国）
- ・障害者職業センター（職場適応援助者）（国）
- ・ハローワーク（職場適応支援者）（国）
- ・職業能力開発施設（ひょうごジョブコーチ）
- ・県・圏域地域リハ支援センター
- ・圏域コーディネーター
- ・障害者就業・生活支援センター（市町）
- ・基幹相談支援センター（各市）



○地域リハにおける立場から

～本人を支援するネットワークの再構築～ 機関

新たなやりがいと仲間の存在「わたしらしく」

楽しみを見つける

- ・スポーツ吹き矢
- ・ユニバーサルマラソン大会

・県障害者スポーツ協会

・当事者会

・利用者・患者同士のネットワーク

・地域のクラブ(玉津吹き矢クラブ)



○地域リハにおける立場から
～本人を支援するネットワークの再構築～ 機関

継続的な安心した生活の基盤

生活を支える

- ・機能維持向上、IADL
- ・家族などとの調整

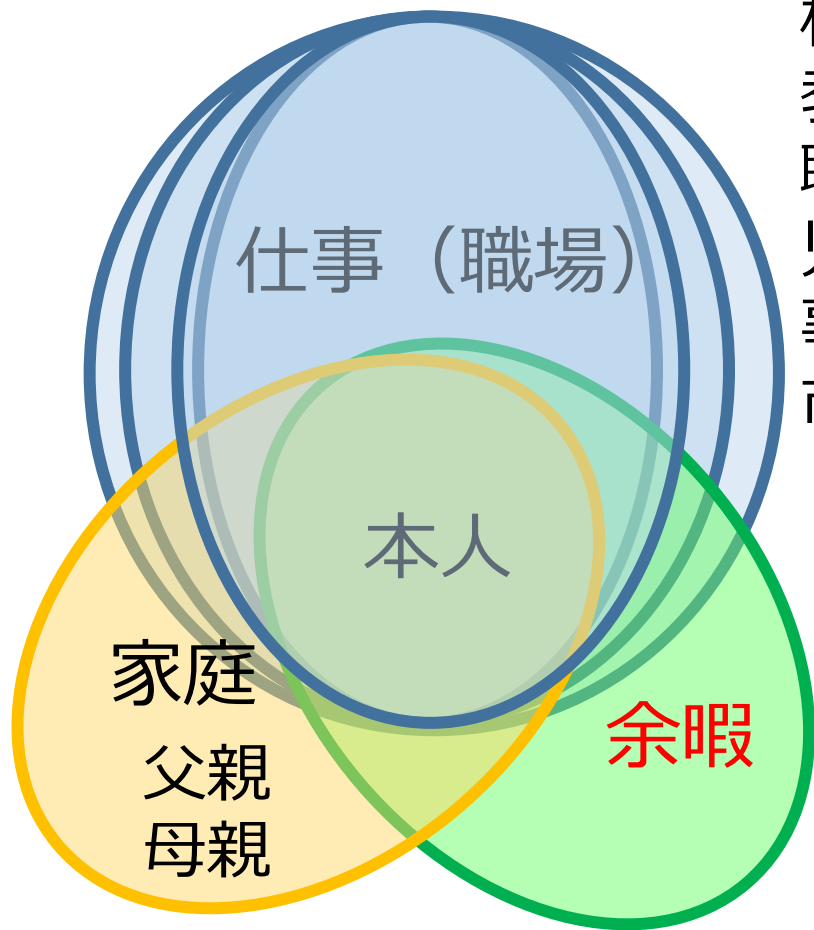
- ・居宅介護支援センター
- ・訪問看護ステーション
- ・訪問リハビリ、通所リハビリ
- ・訪問介護
- ・高次脳相談窓口



○地域リハにおける立場から

～本人を支えるネットワークの再構築～

人・機関



校長
教頭
職員
児童
事務員
市内の教職員

本人を理解
やりがいと居場所



やりがいの
再獲得

訪問リハ
ケアマネ
鍼灸

スポーツ（吹き矢、ユニバーサルウォーク）
利用者のつながり
友人とのかかわり

まとめ

- ・実践を通して、復職後にも職場や家庭での困りごとは生じており、発症後の生活を知ることによって新たな発見があった。
- ・フォーマルサービスにとらわれずスポーツなどの多様な活動の関与の重要性とそれらを発掘する必要がある。
- ・「その人らしさ」の実現にはどこでどんな生活をしているのかそれぞれの地域においてことなる、生活、就労、余暇の情報にアンテナを張りながら、必要な人に必要なタイミングで介入できるよう意識を持つ必要がある。